

私

木洩れ日が見える

其は宇宙の底から湧き上がった

優しい 優しい 光の 集まり

色々な道があつた筈で

隣にも別の道があつた筈で

なのに 私はこの道を選んで

その上に立って

最高の幸せを感じる

そしてまた 次の瞬間には

風のように 光を撫でて

変わってしまう 自分がいる

同じ様に無い 同じ様にはいられない

そんな自分が そこに在る

足を止めず 後ろもむかず

止められず ふり向けず

涙が流れて その過去を悲しむけれど
それを 悔やむ訳でもない

自分勝手な

自由な

風になりたい そんな私

風のように 形をかえて

世界を撫でて この手で触れて

何かを変えることが出来ない自分を

無力だと 感じながら

せめてもの 光を願い

笑う私

壊れて 壊して

作り上げて 再生する

くり返し くり返して

世界が変わり

空が変わり

時代が変わり

見守る 神様さえも 変わり

貴方が変わり

私が変わる

光がそれを許すから

火が消え去り

緑が枯れて

水が流れて

土に還る

火が燃え上がり

緑がひらき

水が湧き出て

土に産まれくる

命よ 大切な命よ

ぽつり ぽつりと 存在する

貴方と私

だけど 光がさすから 毎朝さすから

優しい 優しい 光で包まれた

貴方と私が必ずいる

ぽつりでも 心あたたまる気がした

そんな 私

海

人間と

海と

全ては同じで

そんな単純なことに

今さら 気づく自分がいる

美しくキラキラ光る

水平線は

あまりにも 正しすぎて

人は そんな浅くて

美しく光る 海に

安心してみたり

するけれど

本当は みてみたい

底が深くて 暗い海の色を

おそれてる

そこは未知の世界だから

きつと知りたくないのだろう

光が視えないから 不安なのだろう

綺麗な珊瑚礁も

色のついた鳥達も

優しく響く 波の音も

全て無になるから

おびえるのだろう

だけどきつと底があつて

深い 深い 海にも

底があつて

そう 本当に安心出来る

大地があつて

それは とてもどっしりとしていて

深みがあつて

まるで 母の様なのだろう

少しずつ 少しずつ

照らしながら

一人で行く路は

怖くて 黒暗で

不安になるだろうけれど

皆一緒だから

最後にやがて辿り着く場所は

一緒だから

だから

その路の途中で

出来ればでいいから

無理なんて いらないから

上もみて

右もみて

左もみて

下もみてみて、

ゆっくりでいいから

多く

楽しく

笑っていて